エス・ジー・シー佐賀航空株式会社所属ロビンソン式Ｒ４４Ⅱ型（回転翼航空機）
ＪＡ７７９Ｎの航空事故調査について
（経過報告）

令和７年６月２６日
運輸安全委員会（航空部会）

運輸安全委員会は、令和６年７月２８日、福岡県柳川市内の農地において、エス・ジー・シー佐賀航空株式会社所属ロビンソン式Ｒ４４Ⅱ型ＪＡ７７９Ｎが飛行中に機体が損傷し墜落した航空事故について、令和６年７月から原因を究明するための調査を進めてきたところであるが、これまでの調査で得られた情報をもとに、更に事実の確認や分析を進めるとともに、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。このため、本調査については、本航空事故が発生した日から１年以内に調査を終えることが困難であると見込まれる状況にあることから、運輸安全委員会設置法第２５条第４項の規定に基づき、以下のとおり本調査の経過を報告する。

なお、本経過報告の内容については、今後、新たな情報の入手等により、修正されることがあり得る。

また、本調査は、本航空事故に関し、運輸安全委員会設置法及び国際民間航空条約第１３附属書に従い、航空事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故等の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行うものであり、本航空事故の責任を問うために行うものではない。

１．航空事故の概要

エス・ジー・シー佐賀航空株式会社所属ロビンソン式Ｒ４４Ⅱ型ＪＡ７７９Ｎは、令和６年７月２８日（日）、遊覧飛行を終了後、機体空輸のため、大分オートポリス場外離着陸場から佐賀空港へ向けて飛行中、１６時１２分ごろ、佐賀空港の東南東約３．３㎚ の農地に墜落し、機体は大破して、火災が発生した。同機には、機長ほか整備士１名が搭乗していたが、２名とも死亡した。

２．調査の概要

運輸安全委員会は、令和６年７月２８日、本航空事故の調査を担当する主管調査官ほか２名の航空事故調査官を指名した。現時点までに関係者からの口述聴取、残骸調査、整備記録の分析、気象に関する情報収集等を実施した。

本調査には、事故機の設計・製造国であるアメリカ合衆国の代表及び顧問が参加している。

３．判明している主な事実情報

（１）飛行の経過

同機は、令和６年７月２８日（日）、大分オートポリス場外離着陸場で前日の２７日か

ら実施していた遊覧飛行を終了し、機長が右前席に、確認整備士が左前席に搭乗して、１５時５２分ごろに同場外を離陸し、佐賀空港へ向かった。同機は、１６時０８分５７秒、佐賀飛行場対空援助局（以下「佐賀レディオ」という。）に佐賀空港から東南東７nmを高度約２，０００ftで飛行していることを通報し、航空情報を入手した。同機は、１６時１０分４８秒、佐賀レディオに３nmの通報を行い、滑走路がクリアーである旨の情報を受領した。佐賀レディオを担当していた航空管制運航情報官２名によると、同機は、APDU（Aircraft Position Display Unit：空港用航空機位置表示装置）では３nmまでは映っていたが、同機を直接視認することはできず、４～５分後に東南東の方向に黒煙が上がるのを見た。

同機は、１６時１２分ごろ、佐賀空港の東南東約３．３nmの農地に墜落し、機体は大破して、火災が発生した。同機には、機長ほか整備士１名が搭乗していたが、２名とも死亡した。また、テールローター及びテールコーンの残骸は、機体から約１４０～２１０m離れた地点に落下していた。

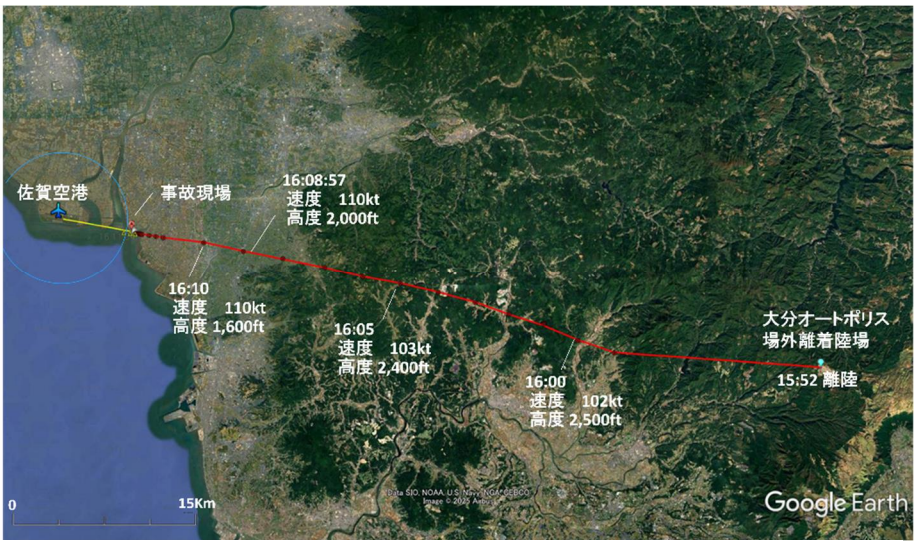

図１　同機の推定飛行経路

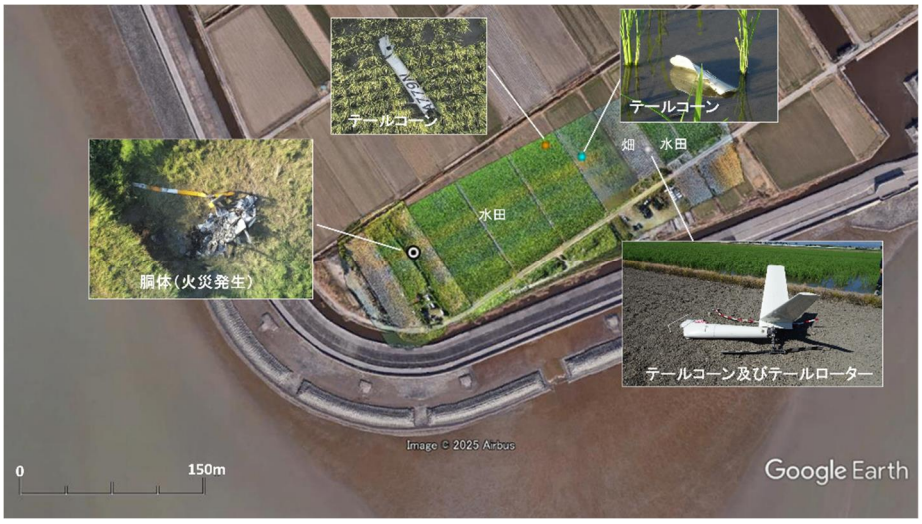

図２　同機の残骸の位置

（２）死傷者

機長及び整備士各１名　死亡（外傷性ショック死）

（３）航空機の損壊

大破

（４）気象

事故現場の西北西６km に位置する佐賀空港の事故関連時間帯の航空気象の観測値は、次のとおりであった。

16 時 00 分　風向　２４０°、風速　７kt、卓越視程　１０km 以上、
雲　雲量　１／８　雲形　積雲　雲底の高さ　３，５００ft、
気温　３４℃、露点温度　２７℃、高度計規正値（ＱＮＨ）　２９．９４ inHg

４．今後の調査

本航空事故の原因及び本航空事故に伴い発生した被害の原因の究明並びに事故の再発防止策の検討のため、これまでの調査で得られた情報をもとに、同機が佐賀空港へ進入中に機体が損傷し墜落した原因について、更なる事実確認や分析のほか、原因関係者からの意見聴取及び関係国への意見照会を行う必要がある。

当委員会は、これまでの調査、分析等によって得られた結果を踏まえて、引き続き本航空事故の原因等の調査を進める。